

(4) アルブミン製剤は減少するが多かった（第 1 回目 78.1%、第 2 回目 84.6%）（減少割合は 20%減少するが最も多かった）。

(5) IVIG は変わらないが多かった（第 1 回目 51.0%、第 2 回目 60.0%）

2-4. 血液製剤使用量の増減量の予測（5年後）

デルファイアンケート調査の第 1 回目と第 2 回目の回答に有意差が確認出来なかったため両者を合計したもので 5 年後の増減量の予測を試みに計算してみると、赤血球は -1.7%、血小板は +0.7%、FFP は -15.9%、アルブミンは -16.3% IVIG は -1.0% となった。また第 2 回目調査回答だけで計算すると、赤血球は -1.4%、血小板は +1.2%、FFP は -16.2%、アルブミンは -15.4%、IVIG は -1.1% となった。

D. 考察

適正使用推進のために、輸血療法委員会の機能強化が必要であるとの意見が多かった。また、アルブミンの適正使用の重要性は多くの回答者が認めるところであった。一方、赤血球製剤については、適正使用の重要性についての認識が低かった。厚生労働省が推進しているアルブミンの適正使用の政策が反映しているものと考えられる。

E. 結論

今回の調査により、各血液製剤の使用量が 5 年後、量的にどのように変化するか把握できた。この結果をもとに、平成 19 年度研究で変動要因の詳細な分析とデルファイアンケート調査の質問内容の検討、調査対象者の拡大を行い、将来予測精度の向上を図ることとする。

F. 健康危険情報
特になし

G. 研究発表

1. 論文発表
発表予定あり
2. 学会発表
発表予定あり

H. 知的財産権の出願・登録状況
(予定を含む)

1. 特許取得
特になし
2. 実用新案登録
特になし
3. その他
特になし